

第1章 環境保全

五 町土の保全

1 吉野川堤防工事の状況

堤防事業の経過について

一 加茂谷川堤防

買収

工事

11,800m

昭和五十九年度より

着手年月 平成元年十月

竣工年月 平成十一年二月

工事費 約七七〇、〇〇〇千円(七六七、二七四千円)

二 加茂第一堤防	112,800m
買収	昭和六十年二月〜継続中
工事	着手年月 平成六年十二月〜継続中 竣工年月 未定
工事費	約一〇〇,〇〇〇千円(平成一五年現在)
三 用地補償費(全体)	
金額	七、〇五七、〇〇〇千円 (一平方メートルあたり 一八、〇〇〇円)
面積	三九・五一ヘクタール

四 埋蔵文化財調査費用	金額 九〇〇、〇〇〇千円 (総費用の見込み)
-------------	------------------------

吉野川の堤防工事は、平成元年から始めて平成十六年現在、工事は継続中である。

明治三十四年に着手した水害防備林が、明治・大正・昭和の時代を通して、三加茂町の土地・家屋を守った。土地・家屋が流されることはほとんどなかったが、洪水のたびに浸水は続いた。それでも昭和から平成にかけて、植林・ダム建設等によって水害はずいぶん減少した(参照第五編 防災・治安二六四ページ、水防林記念碑)。

平成に入ってから堤防工事は、その完成によって三加茂町の町土保全の仕上げとなる。吉野川と三加茂町とのかわりあいには、様々な恩恵と災害との歴史を重ねて現在に至っている。



堤防工事図

2 ボランティア団体の活動

三加茂町のボランティア活動をあげるとあまりに多くてその紹介はとてできない。

清掃・除草・花いっぱい運動・吉野川の川原の清掃・更に、福祉・教育・水路清掃・道路愛護の日など多岐にわたる。老人会・婦人会・福祉委員・振興会全員による道路愛護・用水路の清掃などのほか、「稲持つくし会」・「北村平成福祉会」・「あじさい会」・「さあやらんで大楠21」等多くのボランティア団体があって、そのすべてを

第3章 交 通

第三章 交 通

第一節 道路・橋・歩道橋

一 道 路

町内では国道一九二号線が新しく昭和四十七年（一九七二）七月一日開通した。中心部では歩道が併設され、信号機は一一個所設置し、車の流れが良くなり旧国道は道幅が三メートル余しかなく車が停滞して動かなくなつたことを思うと夢のようである。

平坦部の田園地帯を東西に抜け、交通量が多く本町の大動脈となっている。しかし、道路が良くなり、その一方では交通事故が多発している。

国道沿いには大型量販店や大小の店舗、役場、郵便局、銀行、病院などが移り賑やかになった。平坦部では道路沿いのほとんどの用水路や側溝に蓋をして道幅が広くなり車の通行が便利になった。

農免道路が平成四年南の山麓に滝下から山根まで開通した。加茂北線は吉野川沿いに平成十四年一期工事が完成し、二期工事が進んでいる。

旧国道の加茂谷橋からトレーニングセンター裏まで三七二・九メートルが町道スポーツセンター線として平成

第9編 情報・通信・交通

町内道路の総延長

(単位：m)

区 分	国 道	県 道	町 道	林 道
実延長			(375線)	(22線)
	10,178	17,427	269,563	62,537

十一年二月開通、その地点より三庄地区で工事中の吉野川堤防に沿って二・四キロメートルの町道、国道一九二号から架設した角の浦大橋までの道路工事も合せて完成した。
※ 町内全域の信号機設置箇所は平成十六年現在一五か所となっている。

農道三加茂線（滝下～山根）

総工費	約 6 億5,000万円
起工年月日	昭和49年
完成（開通）年月日	平成 4 年 9 月21日
延長	3,535 m
幅員	5.5 m

農道加茂北線（加茂地区吉野川沿）

	全 体	加茂地区	加茂二期地区
総 工 費	約 8 億1,400万円	3 億6,700万円	4 億4,700万円
起工年月日	昭和63年	昭和63年 7 月 1 日	平成10年 1 月29日
完成(開通)年月日	平成23年予定	平成14年 3 月29日	平成23年 3 月31日 予定
延 長	2,930 m	1,430 m	1,500 m
幅 員	5.5 m	5.5 m	5.5 m